

第2回 学校運営協議会 令和2年12月9日（水）（授業見学・協議）

本校会議室において、第2回の学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会委員5名（オンライン参加1名、代理出席1名）、学校側からは、准校長、教頭、課長補佐、首席、各系列代表教諭が出席しました。今回の運営協議会では、授業見学をしていただいた後、各系列の取組みの進捗状況や「地域協働連携（グローバル型）」事業特例校の取組みについて説明し、本校の課題や方向性について議論しました。

内容

1. 授業見学 13:10 ~ 15:00

2. 運営協議会 15:25 ~ 16:55

① 准校長挨拶

② 協議事項

- ・授業見学について
- ・授業アンケートについて
- ・各系列の取組みについて
- ・文科省「地域協働推進校（グローバル型）」事業特例校の取組み（GS）について
- ・その他

③ 連絡

次回、第3回の開催 令和3年3月上旬予定

委員からの意見等

【授業見学】

- ・農業の収穫の授業が良かった。内容の濃い授業であった。前回とは違った野菜収穫の良いところを見せてもらった。
- ・農場の後、書道の授業見学を行った。自分の作品がカレンダーになる授業であった。作品とカレンダーができ、最後の印を押すところで、生徒と先生の考えをまとめていた。30人いる授業では、なかなかできない授業であった。
- ・能勢町・能勢分校連携講座では、講義は眠くなりそうなものだが、生徒はよく聞いていていい雰囲気で行われていた。農場では、学校と家庭を繋ぎ、生徒を育てる環境が見受けられた。書道では、少人数で先生との触れ合いがあり良かった。

【協議】

- ・授業アンケートでは、1年生「生徒取組み」が上がっており、やる気のある生徒が多い印象である。2年生については、この1年間で先生方のおかげである。3年生は将来についての不安も要因かもしれない。
- ・アンケートを取る時期によるかもしれない。3年生はもともとポテンシャルが高かったので、ここからの伸びはなかなか表現しきれないかもしれない。
- ・町民にも、能勢分校生の活動する姿をもっと見てもらえることが必要である。一般町民に

も見せたい。高校生自身も能勢町での活動が、今後につながる。

- ・中学生には活動が浸透し刺激になっている。高校生の姿が、中学生の進路につながっている。
- ・シュタットベルケが重要な軸である。町としてシステムを模倣するのではなく、教育を通して行ってほしい。現在コロナのため、移動がなかなかできない。ドイツで行っていることを、オンラインを通して学習会を行いたい。ぜひ参加して欲しい。
- ・里山留学について、大学でも広めたい。大阪では、箕面の滝が有名である。外国の方は緑を求める傾向もある。能勢のイメージはいいので、広めていきたい。
- ・里山留学はいいアイデアである。中学生は新しい友達が欲しい。外部から中学生が集まると、いい刺激になる。中学校でも広めたい。
- ・町外からの生徒も増やし、また、地元でももっとPRすれば地元生徒も戻ってきてくれる。思う。